

アドバンスト施設による次世代介護機器導入事例

「安心・安全な移乗」を目指して

～Hug導入の成果～

デイサービスセンターみどりの樹

Being with your life

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	社会福祉法人信愛報恩会
施設名	デイサービスセンターみどりの樹
所在地	東京都清瀬市下清戸4-709-17
定員	30名
平均介護度	2.4
職員数	15名
特徴	<p>信愛報恩会は、病院をはじめとした14事業所を持つ、110年を超える歴史のある社会福祉法人です。</p> <p>その中のひとつである『デイサービスセンターみどりの樹』は、2020年10月1日に開所した通常規模型の通所介護事業所です。</p> <p>同じ建物内には『サービス付き高齢者向け住宅みどりの樹清瀬』がございます。天気が良い日には、建物から富士山も望め、とても景色の良いところです。</p>



デイサービスセンター みどりの樹の特徴

自宅での生活を豊かにするためのトータルサポート

食事

管理栄養士が献立を考えたバランスが取れたお食事



入浴

ADL向上を意識した入浴。プライバシーと気持ち良さの両立



運動

人間とAIで身体機能を評価。個々に合わせた機能訓練を実施



生きがい

人との交流、楽しみ、レクリエーションの提供



デイサービスセンター みどりの樹の特徴

テクノロジーと人の温もりが支える、未来の介護に挑戦



ロボット掃除機
みどりちゃん



姿勢AI解析リハケア



LOVOT りんごちゃん



ペットカメラ



受付システム



ライフリズムナビ

本日お話しする内容

- 施設概要
- **導入した次世代介護機器**
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

導入した次世代介護機器

メーカー名	FUJI
機器名	Hug L1
台数	1台



本日本話する内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- **導入の手順**
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

導入の手順

導入の6つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">● 情報収集● 取組に対する組織全体での合意形成● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none">● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none">● 導入計画づくり● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none">● 導入準備● 次世代介護機器の活用● 小さな成功事例
手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">● 効果検証● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none">● 実行計画の練り直し

取組期間：約9カ月

取組実施者：約6名

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

本日本話する内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- **取組内容（手順1～6）**
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間 : 10月2日～

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- 福祉機器展の見学
- 福祉用具事業所への相談、デモ機のレンタル

● 取組に対する組織全体での合意形成

- 職員の負担が大きく休職、離職につながっている→職員の負担軽減が急務
- 経験の浅い職員も多く、ケアの質が統一できていない
- 便意、尿意はあるのに立ち上がりができないためオムツで排泄を行う利用者がいる

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	相談役
2	管理者	全体の管理
3	事務	事務担当
4	介護職	研修担当
5	介護職	マニュアル担当
6	介護職	運用ルール担当
7	看護職	リスク担当

手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 2月10日~2月20日

手順
2

● 課題の見える化

● 課題の見える化

原因

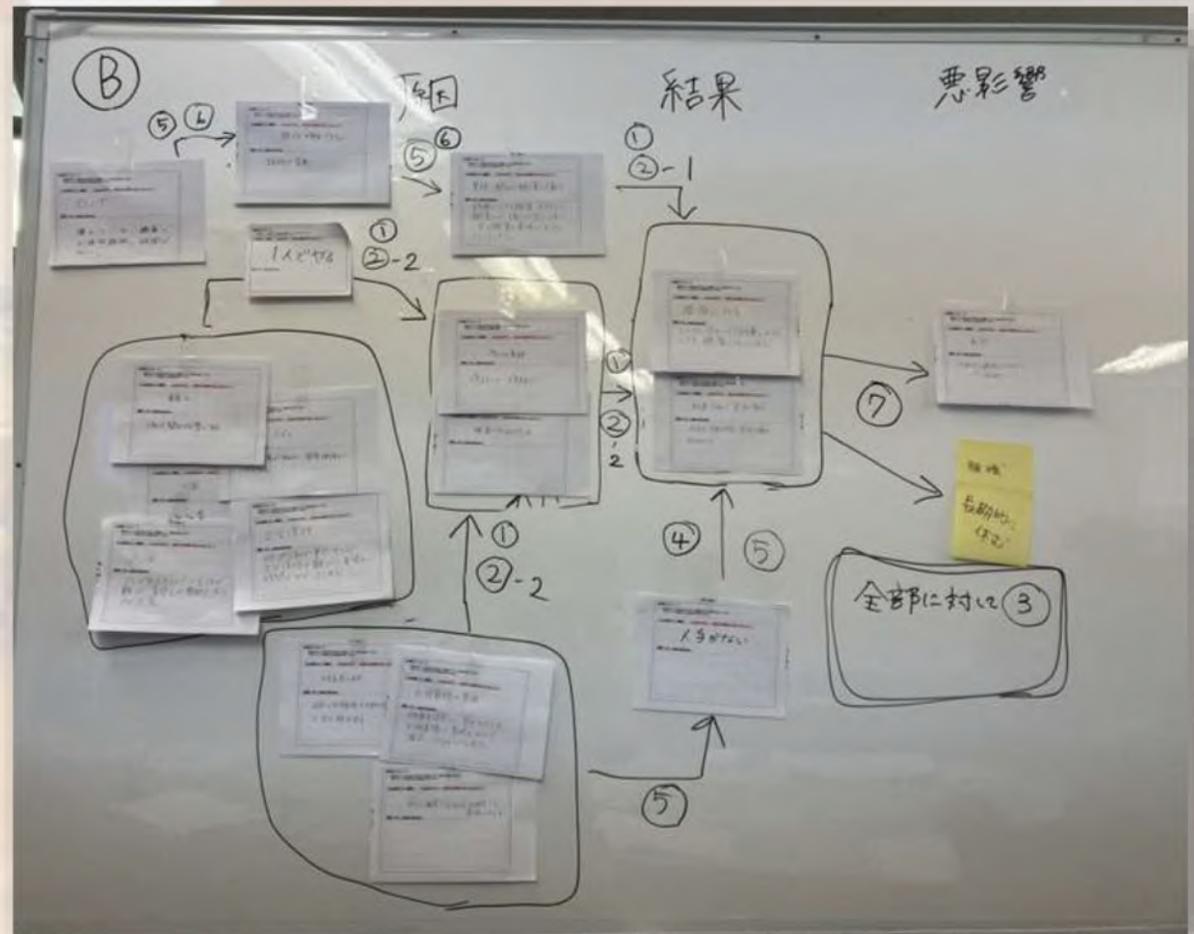
職員の身体的負担

結果

休職・離職

悪影響

人手不足
職員の負担増



手順 3 : 実行計画を立てよう①

取組期間 : 2月21日～

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

- 次世代介護機器の導入により移乗介助時の職員の負担が軽減し、休職・離職を防ぐことができる
- オムツを着用する利用者がトイレを使用する場合、2名介助が必要だが、1名で排泄の支援が可能となる

□ 導入する次世代介護機器

- 移乗サポートロボット Hug L- 1

□ 成果指標

- 職員が腰痛を感じる度合い
- 職員の心理的負担感
- オムツ着用者のトイレ使用回数

手順 3 : 実行計画を立てよう②

取組期間 : 3月7日～

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- A様 男性 96歳
- 要介護5 ADLほぼ全介助 排泄はオムツ着用
- ラクナ梗塞による左不全麻痺
- 5回/週 デイサービスを利用

□ 選定理由

- 生活全般において介助が必要な状態であるが、**尿意・便意**がある
- 奥様は、A様がトイレに座って排泄ができることを**望んでいる**

□ 選定する際に留意した点

- 使用することで、**生活の質が向上**するか
- 機器の使用をご理解いただくことができるか
- 多職種から見て、使用が**妥当**であるか

手順4：改善活動に取り組もう①

取組期間：3月7日～

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

□ 実施内容

①職員向けのマニュアル作成

- すぐに見ることが出来る様に機器の設置場所に置く
- 機器使用時に見る簡易的なものと、詳細を記載した二種類を作成した
- 画像を多くすることで視覚的にわかりやすくする

②利用者、家族向けの説明書作成

- 写真を入れて使用する様子をイメージ出来る様にする

③実演・体験会

- (職員向け)実際に機器に触れ体験することで、使用時のイメージをもってもらう
- (利用者向け)スタッフがモデルとなり実演することで、安全性と利便性を理解してもらう

体験会でのスタッフの声

介護経験が少ないスタッフでも、これなら重介護の人の
移乗ができる！

全員が同じ支援、標準的な介護ができると思う。

体験してみて、思ったよりも安楽。
使用方法はとても簡単だった。

トイレに座れない人を、座らせられるかもしれない。楽しみ。

人に抱えられるよりも、安心感がある。

正面から支えられるので、抱えられた時の負担が少ない。

慣れないと怖いかもしれない。

Hugのセットの仕方の研修が必要。



手順4：改善活動に取り組もう②

取組期間：3月7日～

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 小さな成功事例の共有

□ 職員の声

腰への負担が減った

使用してみると意外と簡単にできた

□ 利用者の様子、変化

トイレを使用できてうれしい

オムツ交換の頻度が減った

□ 成功事例の共有方法

- 申し送りやケア記録への入力
- プロジェクトミーティングで発信
- ミーティングで発信

手順 5 : 改善活動を振り返ろう①

取組期間 : 5月19日～

手順
5

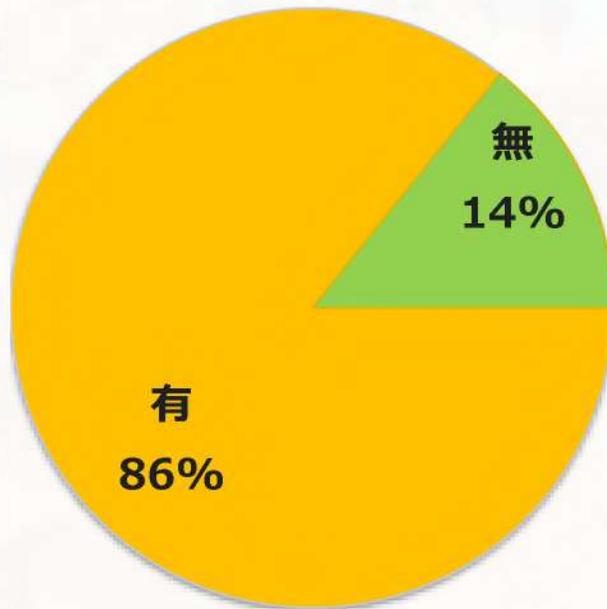
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

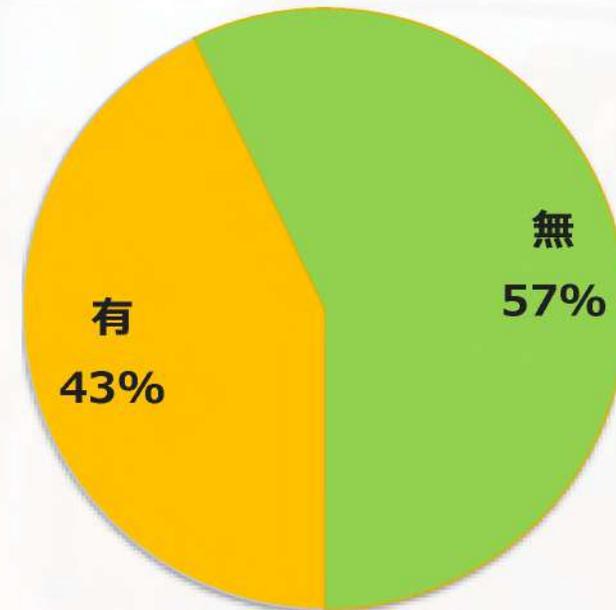
- 職員へのアンケートにより機器導入前後での変化を検証する

アンケート期間 : 3月7日～5月17日 職員数 : 10名

腰痛の有無 (過去)



腰痛の有無 (現在)



手順 5 : 改善活動を振り返ろう②

取組期間 : 5月19日～

手順
5

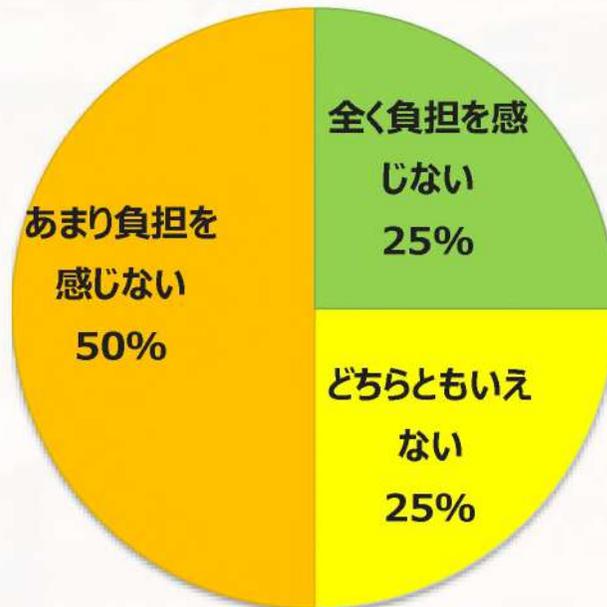
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

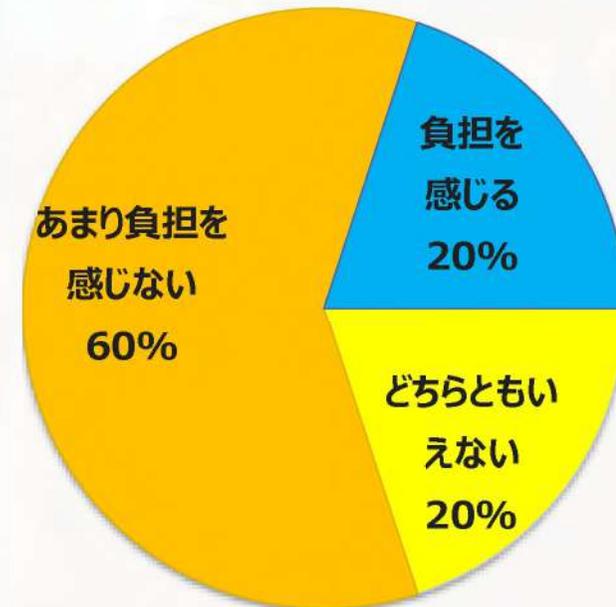
- 職員へのアンケートにより機器導入前後での変化を検証する

アンケート期間 : 3月7日～5月17日 職員数 : 10名

Hug導入前に、「**身体的負担が大きい**」と感じていた職員（56%）のHug導入後の「**身体的負担の変化**」



Hug導入前に、「**精神的負担が大きい**」と感じていた職員（71%）のHug導入後の「**精神的負担の変化**」



手順 5 : 改善活動を振り返ろう③

取組期間 : 5月19日～

手順
5

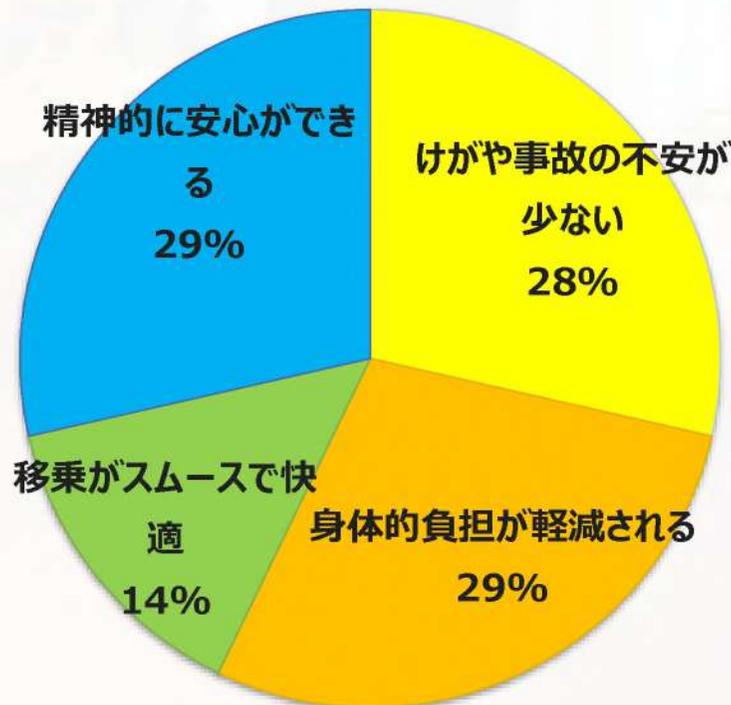
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

- 職員へのアンケートにより機器導入前後での変化を検証する

アンケート期間 : 3月7日～5月17日 職員数 : 10名

Hugを使用すると、最も感じる利用者さまのメリット



手順 5 : 改善活動を振り返ろう④

取組期間 : 5月19日～

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

- オムツ着用者のトイレ使用回数を検証する

集計期間 : 3月7日～5月17日

- デイサービス利用中のトイレ使用回数をカウント

トイレ使用回数



手順 5 : 改善活動を振り返ろう⑤

取組期間 : 5月19日～

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 取組み全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいった点・その要因

【上手くいった点】

- Hugを使用しない移乗で、身体的負担を感じていた職員は、Hugを使用することで、身体的負担を軽減することができた。
- 腰痛を感じる職員が減った。
- オムツの人が、トイレで排泄を行うことができ、ケアの向上ができた。

【その要因】

- DXや生産性向上の取組みを積極的に行っている事業所なので、新しい取組みに対しても、前向きに考えている土壌がある。
- プロジェクトリーダーから導入の意義、経緯の説明があったことで意思の統一が図れ、スムーズに開始できた。
- 職員向けの体験会を行なったことで、使い方をイメージしやすかった。
- トイレでケアを行うことで、ご本人やご家族の満足度も上がり、職員のHugを使用する目的を認識しやすかった。

手順 5 : 改善活動を振り返ろう⑥

取組期間 : 5月19日～

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- 取組み全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいかなかった点・その要因

【上手くいかなかった点】

- Hugを使用しない移乗に精神的負担を感じていた職員の中には、Hugを使用しても変化がない職員もいた。

【その要因】

- 機器を取り扱うこと自体、職員に不安を与えることがある。
- 1人1人の習熟度にあわせて、丁寧にフォローする取組みができなかった。
- 少人数の事業所のため、ケース検討や振り返りなど、プロジェクト会議の時間をもつことが難しかった。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 6月9日～

手順
6

● 実行計画の練り直し

● 取り組み(全体)を通して見直したこと

◆ マニュアルの見直し

写真を増やし、安全に使用するためのポイントを追加。動画でも確認。

① 身体保護部は利用者の腕を握り、ハンドルの両サイドを握ります

② Hkgの「たつ」ボタンを押し続けます。

③ Hkgの「さる」ボタンを押し続けます。

④ トイレの場合は、そのまま前に進んでおくことも可能です。

⑤ 足が踏める位置まで立ち上がり、足が踏めます。

⑥ キャスターの向きを確認します。

動画でも確認できます

QRコード

安全に使用するためのポイントを確認してください。また、必ず安全に使用してください。

① 身体保護部は利用者の腕を握り、ハンドルの両サイドを握ります

② Hkgの「たつ」ボタンを押し続けます。

③ Hkgの「さる」ボタンを押し続けます。

④ トイレの場合は、そのまま前に進んでおくことも可能です。

⑤ 足が踏める位置まで立ち上がり、足が踏めます。

⑥ キャスターの向きを確認します。

◆ OJTの見直し

OJTプログラムを見直し、段階を経ながら、スキルを習得してもらう。

第一段階

基本練習（職員で練習）

第二段階

利用者に対して職員2名で実施（様々なパターン）

第三段階

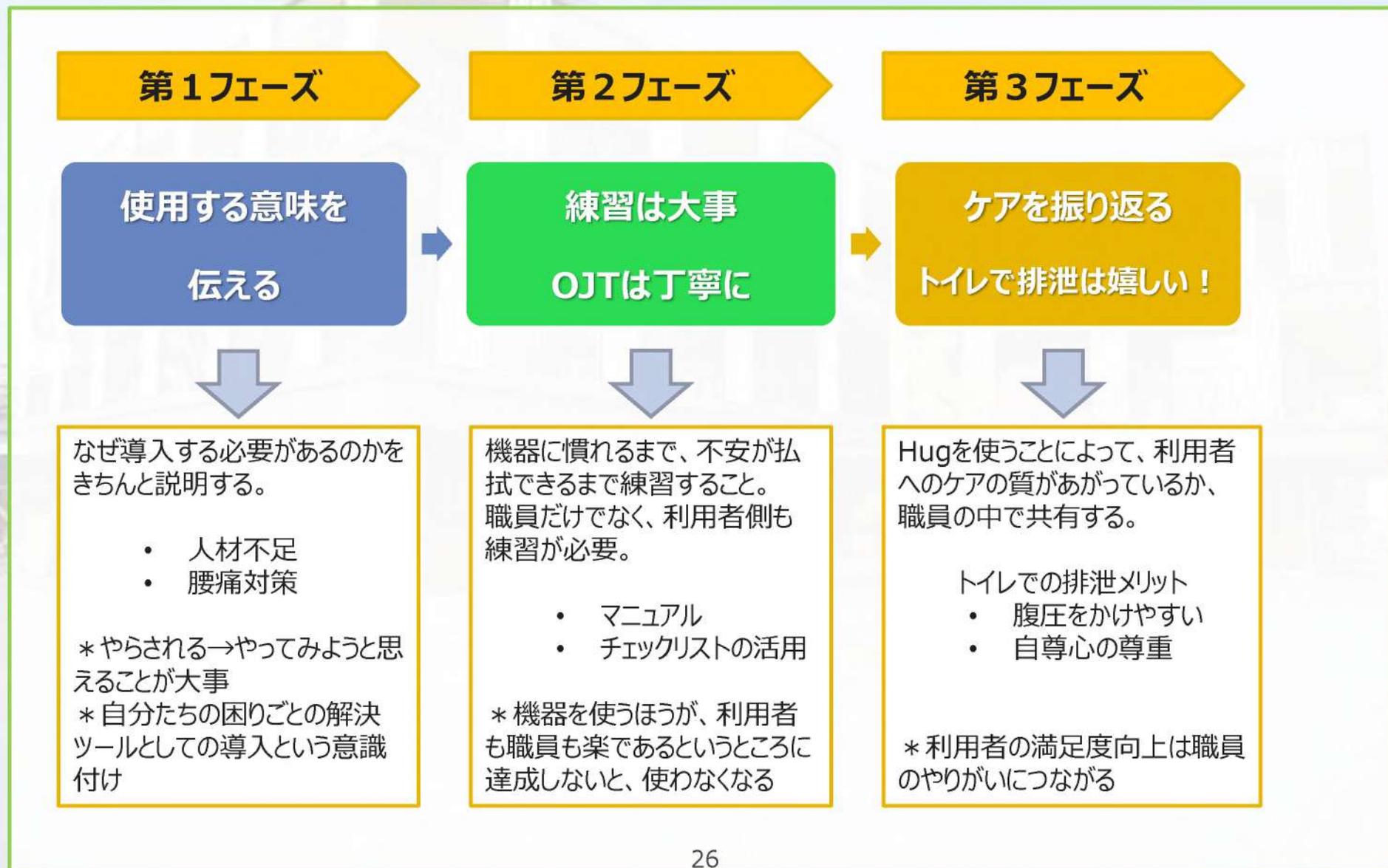
利用者に対して1人で実施（チェックリストをもとに評価）

事前準備	1) Hkgのガタつきや、バッテリー、キャスターの確認をした	○
	2) Hkg 操作時に踏み込み等の身体を傷つける危険性のない環境設定であることを確認した	
	3) 利用者が機器に巻き込まれない状態であることを確認した	
OJT 使用中	4) Hkgの身体保護部を利用者の腕が当たらない位置に設定した（保持部が利用者のへそ程度）	
	5) 背もたれなしで安定して座ることができ、タブレットに両足が乗ったことを確認した	
	6) 身体保護部は利用者の丈もに数1cm入る程度に下げた	
	7) 立ち上がる前に腕が身体保護部に当たっていることを確認した ※確認の順序	
	8) 立ち上がりの介助は、介助される側の不安や痛み等を確認しつつ行った	
	9) 移動時に速度を遅くする、ずり落ちに対応できる立ち位置をとる等、転倒予防に配慮した	
	10) 移動先の安全確認をし、Hkgと移動先を適切な距離に近づけられた	
後	11) 使用後に傷やあざ、痛みがないが確認した	

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- **取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと**
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと



本日本話する内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

☑ Hugを使うことでスタッフの負担軽減に繋がった

- ▶ 2名介助を要する介助が1名で可能になった
- ▶ 移乗介助が苦手なスタッフでも可能になった
- ▶ 腰痛軽減に繋がった

☑ Hugを使うことでトイレに座って排泄することが可能になった

- ▶ 排泄サイクルが整った
- ▶ 自然排便が促進された
- ▶ オムツ交換毎の排便がなくなりスキントラブル解消
- ▶ 奥様の『トイレに座らせたい』という**希望が叶った**

みんなHAPPY



デイサービスセンターみどりの樹
Being with your life